



ていねいに生きて行くんだ

もう12月も中旬。コロナで時間が止まってしまったような感覚が拭えない一方で、そんなことにはおかまもなく確実に進行していく時間というものを意識せざるを得ない▼今年もいろいろな友人たちから新・自著を恵送いただいた。その中の一つに熊本県人吉市出身で八代市に住む前山光則さんからの『ていねいに生きて行くんだ ≪本のある生活≫』(弦書房)がある。手元に届いて間もなく一読したが、最近また読み返している▼前山さんとは熊本にいた折、山頭火の関係で出会いを得、以来お付合をいただいている。前山さんは1947年の生まれで、高校で国語の教師をつとめられた。その傍らで人吉や八代をはじめとする南九州に関係の深い山頭火をはじめとする詩人・歌人等や、球磨川、球磨焼酎、山里・川里の暮らし等を取り上げた多くの著作とともに、書評、コラム等もたくさん書いておられる。弦書房のホームページに掲載したコラムの中から70編を抜き出して編集されたのが本書となる▼全体は5章からなり、島尾敏雄、石牟礼道子、夏目漱石、与謝野晶子、若山牧水、山頭火、中原中也、淵上毛銭が取り上げられているが、これらに続いて「ていねいに生きて行くんだ」「私の居場所・帰る場所」「歩きながら考える」の章が置かれている。これらの中には親交のあった石牟礼道子と交流の様子を綴ったものや、「昨年に奥様を亡くされて書かれた一文「独り住まいと なって」も含まれる▼本書から何よりも強く感じさせられるのは前山さんの「ていねいに生きて行くんだ」という姿勢だ。中心に置かれているのは本ではあるが、そのベースには本にとどまらず、人、歌、地域等々との様々の出会いを大事にしていく心の持ち方があるように受け止めた。新しい年の糧にしたいものだ。

(土着菌)